

よい水をよりゆたかに

7拡事業の完成で24万m³増加

連日の暑さで、水の使用量は急カーブで上昇。毎年、天神祭前後には、水の使用量も1年中で最高を示します。去年も標準給水能力を相当上回るほどたくさん使われていますが、ことしはちょうど今月下旬に第7回拡張事業が完成、計画全量の24万m³が通水し、まず水不足の心配はないといえます。[よい水をより豊かに]をモットーに、水道局では、すぐに第8回拡張事業に着手しますが、以下、私たちの「飲み水」について特集しました。

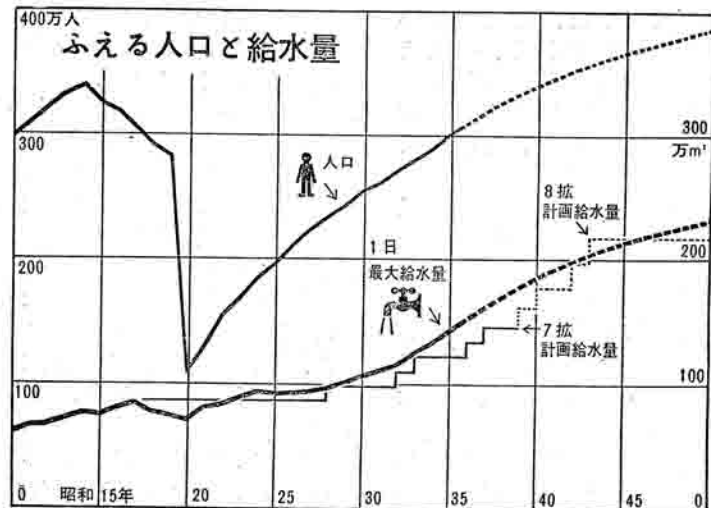


水を大切に

工費80億円をかけて「6拡事業」と同じ規模の浄・配水設備を庭窪浄水場と異配水場内に作り、同じ程度の送配水管を布設したものです。

庭窪浄水場は、前述のように、その浄水能力は東洋一といわれる既設の柴島浄水場の約半分になりますがその特長は、なんといっても、集中管理方式を採用していることでしょう。中央管理室には、浄水場の運転に必要ないっさいの数値がひと目で読める計器類が整然と配置され、作業が正確に、能率的に行なわれるようになっています。ですから、浄化に必要な沈殿促進用の硫酸ばん土や殺菌用の塩素注入なども自動的に行なわれています。水をろ過する方法も、比較的場所をとらず、人手のかからない急速ろ過法を採用しています。おもな施設は、荒い砂やゴミをとる沈砂池が4、各池に送る水をくみあげる取水ポンプが9台、硫酸ばん土をまぜて水をすすめる凝集沈殿池が8、緩速ろ過法の約20倍

の速さで急速ろ過池が40、できた飲み水をたくわえる浄水池が4、配水場へ送るため水に圧力をかける送水ポンプが9台あります。異配水場は庭窪浄水場から約13kmにわたる1.5mの太い送水管で送られてきた水をため、東住吉・住吉・西成区など南大阪へ給水するため圧力をかけて水を送り出すところで配水池が8、配水ポンプが14台あります。庭窪浄水場の送水ポンプ、異配水場の配水ポンプとも、大型ポンプにはめずらしい1人制御方式、いわゆるワンマンコントロールシステムがとられ1人の運転員がスイッチだけで、全部のポンプを運転できるようにになっています。



るので、なんとかしてそれをふやさなければならぬことです。ご存じのように、淀川はいつも豊かに水が流れ、どんなに日でも流れても水がなくなる心配はありません。ですから、流れているだけいからでも使えばよいと思われがちですが、水の流れには最大濁水時の流量を基準にして1秒間に、これだけの量しか取れないという取水権が設けられていて、それを水道用水にどれだけ、工業用水や農業用水、あるいは河川浄化用水にどれだけと配分されているのです。今では、毎秒136m³、1日にして1175万m³の総取水量ぎりぎりいっぱい使われているのですが、都市の発展につれて、飲料水や工業用水など淀川から取る水の量はふえる一方で、昭和40年には今より2割ふえる毎秒164m³、昭和45年には毎秒195m³、昭和50年には毎秒210m³もいることが予想されています。

この問題は、淀川の水を利用する府県や市全部に関係があるだけに、行政区をこえた広い立場から総合的に水資源を開発し、取水量をふやさなければならないのは当然の話で、今年5月発足の水資源開発公団の手で、いま着々、この仕事すすめられようとしています。つまり、水資源開発基本計画に基づいて、治水と利水をあわせた総合的な開発と利用を図るため、ダム、河口セキ湖沼水位調節施設、多目的用水路、専用用水路などの建設と管理を行なおうとするもので、すでに長柄可動セキのかさ上げ工事や木津川に流れる名張川の高山ダムの建設調査がすすんでおり、さらに近く、木津川系結の青蓮寺・宇陀川両ダムの建設工事にも着手することになっています。そして、より以上の需要に対しては、びわ湖の貯水機能の増大を図るびわ湖総合開発計画の実現をまたなければなりません。私たちは、8拡工事の促進と同時に、同公団の仕事に対しても大きな関心をもち、側面からその促進を図っていくことはありません。

ふえる需要に備え「8拡」に着手

急カーブでふえる使用量 戦前の2倍以上も使う水

しかし、こうして給水能力がふえても、水の使用量は市民生活の向上につれて年々大きくふえ、とても安心しておれない勢です。

早い話が洗たくにしても機械で水をふんだんに使い、また、団地やビルの水洗便所や冷房用に、あるいは工場用や自動車かぶて洗車に使う水など、水の使い方がたいへんふえてきたといえます。たとえば、戦前最盛期の昭和14年の市民1人当たりの最大使用量が230ℓであったものが昨夏には499ℓと約2.2倍にもなっています。さらに、8年後の昭和45年には593ℓも使うことが予想されるのをもみても、いかに水の使用量が年々ふえていくかがわかります。

そこで水道局では、さっそく引き続いて、今月下旬から第8回拡張事

業に着手します。この工事は昭和43年完成をめざし庭窪浄水場の用地内に1日32万m³の浄水施設を建設するとともに、新たに、庭窪よりうんと淀川上流の枚方市に水をとりいれる楠葉取水場と寝屋川市付近に1日40万m³の給水能力をもつ浄水場を設け、それに必要な送配水管の布設や配水場の建設などを行ない、あわせて1日72万m³の給水能力をふやそうとするものです。

つまり「8拡事業」は、今まで60余年のうちに7回拡張を行なった現在の給水能力146万2000m³のおよそ半分を、7年で、295億もの巨費をかけて完成しようというのですから、大阪の将来の発展にふさわしい大工事であるといえます。

もちろん、途中でも必要に応じて完成した施設からなん回か一部給水を始めますが、これが完成すると、

大阪水道の1日給水能力は218万2000m³となり、今の調子で使用量がふえていっても十分余裕があり、昭和46年ごろまでは水不足で困ることはないようになります。

戦後の拡張計画は、6拡事業にしろ、7拡事業にしろ、どちらかという、需要に、配水能力が追いつかなくなってきたが、8拡事業では、配水能力が需要量を相当追いつくという形になるわけです。

限界にきた取水量 水資源開発を促進

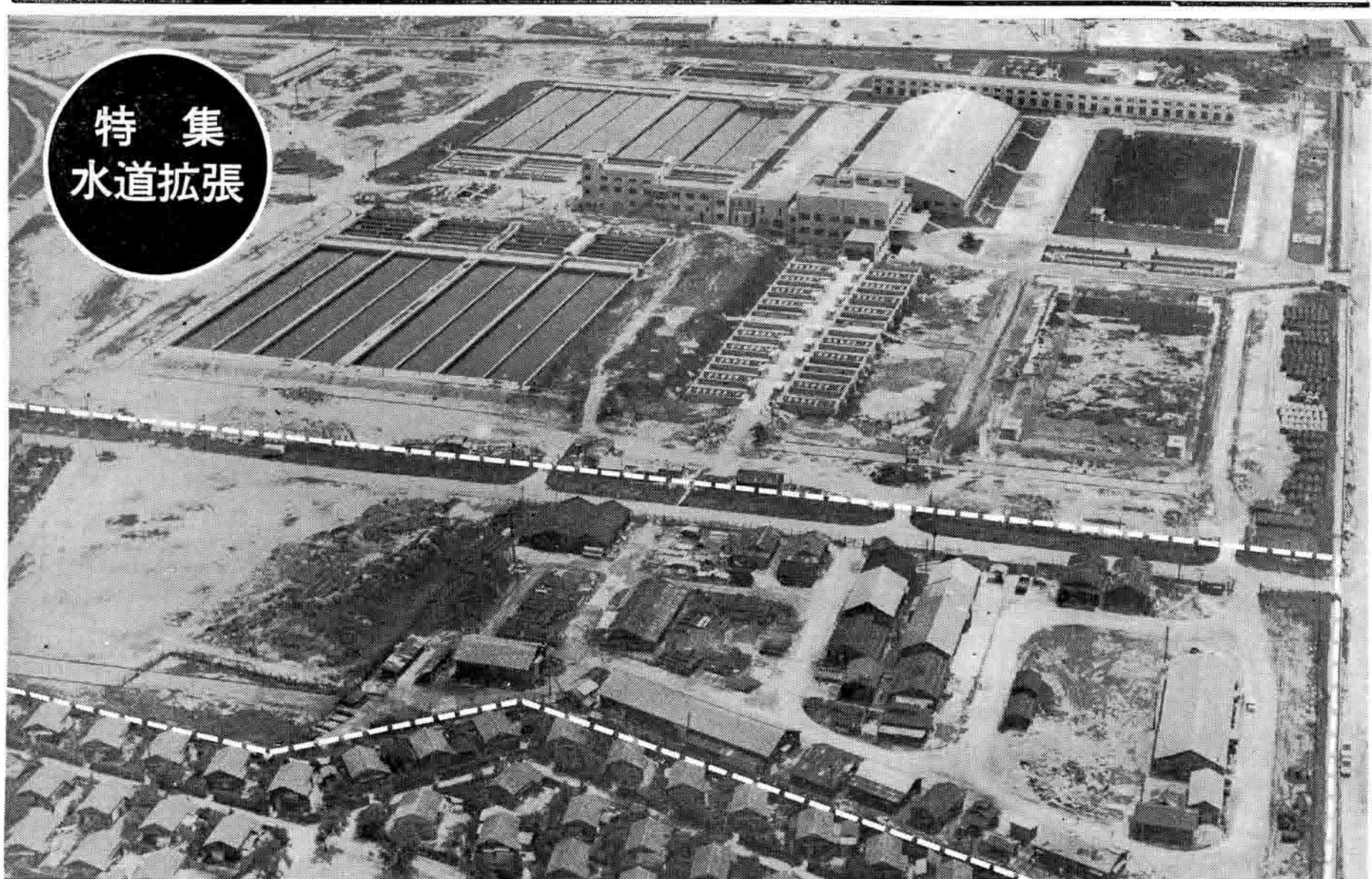
しかし、このような大拡張工事をすすめていくうえに、2つの大きな問題があり、いま、その解決に全力をあげています。

まず第1に解決しなければならないことは、淀川の取水権の問題です。もはや、取水量が限界にきてい

年々悪化する淀川の水質 浄化技術の向上で安全確保

もう一つの問題は水質汚濁の防止です。かつては清浄な水質を誇っていた淀川の水も、工場汚水や都市下水がふえて、急激に悪化し、最近では、水道水源としては限界に近づいているといえます。前述の8拡事業で、大きな経費をかけて取水地点を遠く淀川上流にしたのもこのためです。

水道局では、滅菌のための塩素を2回いれたり、急速ろ過池の表面洗浄装置を増設するなど浄化技術の向上につとめていますので、淀川の水質が以前より悪くなっているにもかかわらず、細菌学的な安全性がまし、衛生的で安全な飲み水を各家庭に給水しています。しかし、水質がこれ以上悪くなるとは困るので、現在、経済企画庁の水質審議会で審議中のいわゆる水質保全法と工場排水規制法に基づく淀川水質の基準が早急に決められるのが望まれます。これが決まれば、悪化の大きな原因である都市下水や、工場汚水などの排出が制限され、汚濁防止に相当の効果が期待されます。



特集 水道拡張

空から見た庭窪浄水場全景。手前から8拡用地(点線内)・完成した7拡・6拡施設



7拡完成の異配水場(右上は6拡施設)



水道のご用は...
もより営業所へ
水道工事・修繕・料金など

営業所名	所在地	電話	受持区	出張所とサービスステーション
扇町	北区南扇町7 (水道局内)	361-2362 312-3956	北・大淀・東淀川	淡路・瑞光・十三サービスステーション
野田	福島区海老江中通1-28	458-3001	福島・此花・西淀川	歌島・此花サービスステーション
大宮	旭区森小路5-22	952-1231	旭・城東・都島	蒲生サービスステーション・茨田出張所
今里	東成区大今里本町1-7	971-7237	東成・生野	生野サービスステーション
上本町	南区上本町5-31	762-1984	天王寺・東・南・浪速	
境川	西区九条南通1-109	541-8067	大正・西・港	大正サービスステーション
粉浜	住吉区粉浜本町2-5	671-1171	住吉・西成	住吉サービスステーション
田辺	東住吉区田辺西ノ町6-35	791-5301	東住吉・阿倍野	阿倍野・平野サービスステーション・矢田・加美出張所

水道サービス向上運動
7月1日—8月31日

水をたいせつに!

水道局の係員が各ご家庭を訪問して、無料または割引料金で水道の口金を修理いたします。
★ほかに制水弁や消火センの点検と調査も行ないます。